

“すずしろ”による物語る演劇シリーズその4

折口信夫

死者の書

こう こう こう—語り部は時空を超えて古代を呼び覚ます。

2014年の初演を経て、2016年には「死者の書」全文を語り切った「すずしろ」。

次に向かうのは、大津皇子と化尼—阿弥陀を演じる観世鍊之丞と創りあげる、新たな劇世界!



郎女さま。郎女は、ご存知おざるまい。

お生まれなさらぬ前の世からのことを。それを知った語り部でおざるがや。

一旦、口がほぐれると、当麻語り部は止めどなく、喋り出した—。

山越阿弥陀図(当麻寺 極楽院)

2017年 1/26(木), 27(金) 7時開演(6時半開場)

入場料:4,500円 於 鍊仙会能楽研修所

◎演出:笠井賢一 ◎出演:坪井美香 戸室加寿子 渡部美保 観世鍊之丞(特別出演)

折口信夫 死者の書

「何とも名状の出来ぬ、こぐらかつたやうな夢をある朝見た。さうしてこれが書いて見たかつたのだ。書いてゐる中に、夢の中の自分の身が、いつか、中将姫の上になつてゐたのであつた」 (折口信夫『山越しの阿弥陀像の画因』より)

あらすじ

奈良の時代、ある彼岸中日のこと。仏説阿弥陀経の千部手写の念願を果たした藤原南家の姫・郎女が神隠しに^{いらつめ}あつた。二上山の男岳と女岳の間に落ちる日輪の中に、阿弥陀仏の尊き姿を目にし、魂が引き寄せられたのだ。

こう こう こう・・・姫の魂を呼び戻さんとする魂呼びの声。その声が、謀反の罪を着せられて殺され、二上山に葬られた天武天皇の息子・大津皇子の魂を呼び起こしてしまう。

山の麓の当麻寺・女人禁制の万法蔵院で見咎められた姫は、その罪のあがないのために庵で日々を過ごすことになった。古語を伝える語り部の一族が姫に物語る。

「大津皇子さまが死の刹那、ひと目見た美しき乙女・耳面刀自。その執心が時を経た今も残り、耳面刀自の血筋である郎女様に向けられて、塚があるこの山に呼び寄せられたのだ」と。姫の夢に、^{おもかげびと}佛人が現れた。憂いをもった目、あらわな白い肌。

季節はめぐり、秋分の日。入り日に、尊者の姿・・・なも、阿弥陀ほとけ一。阿弥陀仏と佛人の幻が溶け合った。

おいとおしい お寒かろうに。その身を覆ってあげたい。郎女は寝る間も惜しんで蓮糸で機を織り上げると、見守る人びとの目にはそのまま数千の菩薩の浮き出た曼荼羅の姿となった。

台本：すずしろ

演出：笠井賢一

出演：坪井美香 戸室加寿子 渡部美保

観世鍔之丞(特別出演)

打ちもの 橘政愛 吹きもの 設楽瞬山

舞台監督：丹下 一

衣裳：細田ひな子

チラシデザイン：多田道子

制作協力：栗栖陽子

舞台写真：武藤滋生

◎入 場 料：4,500 円(全席自由)

◎会 場：鍔仙会能楽研修所

107-0062 東京都港区南青山4-21-29 TEL.03-3401-2285

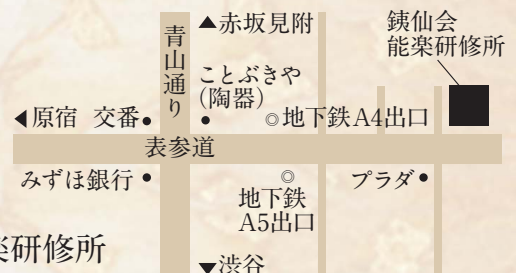
○地下鉄(銀座線・千代田線・半蔵門線)表参道駅下車
A4出口より徒歩3分 ○駐車場はございません。

◎企画制作：すずしろ

◎協 力：下北沢アレイホール / アトリエ花習 / 鍔仙会能楽研修所

◎お申し込み・お問い合わせ：すずしろ

TEL 090-7847-2670 FAX 0280-75-1090 ✉suzushiro2010@gmail.com



【すずしろ】1994年旗上げ。「ものがたる」ことを俳優の始原的な行為として捉え、古典の原文から現代小説まで、あらゆる言葉を「読む」のではなく語ってきた。主な作品に『ふたりのイーダ』『冥土の飛脚』『古事記』など。ブログ suzushiro2010.blog.fc2.com